

品川区教育委員会会議記録

平成 2 2 年 第 7 回 臨時会

場 所 教育委員室
期 日 平成 2 2 年 7 月 6 日
開 会 午後 2 時 0 3 分
閉 会 午後 3 時 2 7 分

出席委員	委 員 長	安尾 久子
	委員長職務代理者	細川 珠生
	委 員	市川 信之助
	委 員	鈴木 敏夫
	教 育 長	若月 秀夫
欠席委員		

出席職員	教 育 次 長	市川 一夫
	庶 務 課 長	田村 信二
	学 務 課 長	富田 祥子
	指 導 課 長	冠木 健
	小中一貫教育担当課長	和氣 正典
	品川図書館長	小川 陽子

議事運営および 委員長、教育 長報告事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 署名委員に市川委員、鈴木委員を指名。 ・ 日程第3報告事項2「品川区立幼稚園教育職員の任免について」について品川区教育委員会会議規則第16条の規定に基づき非公開の会議とする。
-----------------------------	--

件名	日程第1 第50号議案 幼稚園教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部を改正する規則 第51号議案 学校教育職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例施行規則の一部を改正する規則
担当課説明等	(指導課長) ・ 資料に基づき説明
委員質疑要旨	特になし
事務局説明	特になし
委員意見要旨	特になし
議事結果	原案可決

<p>件名</p>	<p>日程第2 協議事項 平成23年度小学校使用教科用図書の採択について（家庭）</p>
<p>担当課説明等</p>	<p>（指導課長） ・ 資料に基づき説明</p>
<p>委員質疑要旨</p>	<p>（委員D） ・ A社が色々具体的で授業を進めやすいと思った。わかりやすい印象である。 ・ 資料には、A社が「家庭の中の自分の役割」について、B社が「文化」について重視されていると記載されているが、本区の小中一貫教育や市民科との関連ではどちらが有効と考えるか。</p> <p>（委員E） ・ 市民科との関連では2年間を継続的に考えることが大事だ。A社B社ともすばらしい出来だと思う。</p> <p>（委員C） ・ 両社とも素晴らしいというのが感想。A社は課題を最初に明らかにし、終了してから振り返るという形式になっている。一人ひとりに問題点を意識させる形が素晴らしい。</p> <p>（委員A） ・ A社B社とも丁寧に子どもの目線で作られている。とてもわかりやすく、よくできている。小中一貫教育を推進する本区の視点、繰り返しの学びや市民科とのかかわりでA社がよいという意見が多いようだ。</p> <p>（委員B） ・ 両社ともよく出来ている。決定的な差異ではないし子どもへの影響はないと思うが、B社は写真が古い印象を受ける。寄せ鍋の写真やミシンの写真などがあるが、全体的にぼやけている印象だ。 ・ 小中一貫教育や市民科とのかかわりについてはA社が優れていると思う。</p> <p>（委員C） ・ 印刷への配慮からすればA社の方が下地の発色が落ち着いている、Bは発色が明るい。これは学習に影響するのか。</p>
<p>事務局説明</p>	<p>（指導課長） ・ 「家庭」と「文化」どちらを重視するかについて、本区小中一貫教育要領の考え方では「家庭」も「文化」も大切であると考えており、比較することはできない。A社は教科書全体の中で「家庭」を意識して扱っていると思う。</p> <p>・ 印刷の発色について、発色が明るいものは長時間使用すると目が疲れるということはある。A社B社の発色についてはごく僅かな差だと思う。</p>
<p>委員意見要旨</p>	<p>（委員A） ・ A社、B社ともに丁寧に作られていて、甲乙付け難いが、内容と本区の小中一貫教育や市民科とのかかわりからA社を推す意見が多い。A社で仮決定したい。</p> <p>（委員一同） ・ 異議なし</p>
<p>議事結果</p>	<p>家庭はA社に仮決定する。</p>

<p>件名</p>	<p>日程第2 協議事項 平成23年度小学校使用教科用図書の採択について（保健）</p>
<p>担当課説明等</p>	<p>（指導課長） ・ 資料に基づき説明</p>
<p>委員質疑要旨</p>	<p>（委員A） ・ 小学校から生活習慣についてこんなに丁寧に教えてもらえるとは幸せだと思ふ。内容的には各社大きな差異はないと思ふ。どれもわかりやすいが、写真にインパクトがあるものとそうでないものがある。</p> <p>（委員D） ・ 保健の授業時間は限られている。各学年ごとに内容的にはどこに重点をおいているのか。</p> <p>（委員A） ・ 保健の授業時間の8時間をどこでどのように確保しているのか。</p> <p>（委員C） ・ 構成と分量について、B社とD社は心の健康やけがの予防に重点をおいているようだが、他社の平均的に配分している構成とどちらが望ましいのか。</p> <p>（委員A） ・ 構成のバランスについては、D社とE社がバランスがとれていると思ふ。E社は各時間のはじめに、「ここで学ぶこと」と課題を明確にしている。このような書き方は子どもに伝わりやすいと思ふ。</p> <p>（委員E） ・ 生活習慣の点で言えば、E社のチェックリストはよく出来ている。このように子どもが自分で確認していくことはよいことだ。</p> <p>（委員C） ・ 保健も各社ともよく出来ている。D社は單元ごとに反省点を設けているのはよい。E社は見た目が白っぽいという問題点はあるが、色々な面で科学的な原因を随所に記載している。科学的な視点はE社が多い。</p> <p>（委員A） ・ 科学的な視点は大切だと思ふ。</p> <p>（委員D） ・ 心の健康やストレスへの対処は市民科でも行なっている内容だが、保健の授業ではストレスへの対処などは、どの程度重視しているのか。 ・ 保健は一つの課題をじっくり学ぶには時間が少なく、短時間で強い印象を与えられる記述も大切。科学的な記述ではD社かE社が優れていると思ふ。</p> <p>（委員C） ・ 不安とのつきあい方などは、D社とE社に「自分のいい所を見つける」という記述がある。こういう視点は評価できる。</p> <p>（委員B） ・ 男女の性差の指導をしやすいものはどれか。 ・ 各教科書の記述に、それぞれの会社の教育観が出ている。個人的にはA社からD社までの子どもへの接し方は好ましいと思わない。例えば、薬物乱用についての記載だが、「なぜ薬物乱用はいけないのか考えてみましょう。」といったような甘い教育観が示されている。これは子ども</p>

	<p>に「おもねる」ような教育の態度である。E社ははっきりと「薬物の乱用はいけません。」と最初に記述している。子どもに考えさせることは大切なことだが、何でも考えさせればよいというものではない。駄目なものは駄目という姿勢が必要なのだ。このような姿勢をとっているE社は評価できる。</p>
事務局説明	<p>(指導課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健における重点事項について、3年生は自分の生活を振り返ることで、その中で教科書の素材から学ぶ。4年生は自らの成長で、ホルモンの話や体についても理解していく。5年生は自らの理解と社会とのつながり、怪我の防止や心の健康。6年生は病気の予防などである。 ・ 保健の授業時間の確保について、各校年間計画の中で子どもの発育状況を見て保健を授業に組み込んでいる。実施時期は各学期に配分している学校と短期に集中して実施している学校がある。 ・ 構成と分量について、小中一貫教育要領の視点でいけば内容はバランスよく設定していくことが大切だ。 ・ ストレスへの対処について、子どもたちの生活の中でストレスの原因となるものは、家庭や友人関係などがあげられるが、子どもが生きていく上でそういうことに対峙し、逃げずに目の前の課題をどう乗り越えるかを考えて育てていかなければならない。ストレスへの対処は重要なことであり、保健分野でもあるが、この点については市民科と教科を統合的に進めていきたい。 ・ 性差の指導について、E社のものは初潮や精通の割合のグラフを示しているなど科学的に記述されており、指導が行ないやすいと思う。
委員意見要旨	<p>(委員A)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ E社を推す意見が多い。E社で仮決定したい。 <p>(委員一同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
議事結果	保健はE社に仮決定する。

件名	日程第3 報告事項1 平成22年度通学区弾力化に関するアンケート調査結果について
担当課説明等	(学務課長) ・ 資料に基づき説明
委員質疑要旨	(委員D) ・ 従来よりも希望申請が少なかったとのことだが、それ以外で今年度の傾向はあるか。 (委員E) ・ 地域とのつながりという視点から考えると、学校がどんどん地域に入ってきて、大きく変わってきている。校長のリーダーシップを見てもらっているのは学校公開をしっかりとやっているということだと思う。 (委員A) ・ アンケートの結果を踏まえさらに小中一貫教育や連携グループに生かして行ってほしい。
事務局説明	(学務課長) ・ 希望申請の割合は3割を切っている。各学校が努力して、地元の学校が選択されているということだと分析している。今年度は、アンケートの回答項目を変更したことにより、明らかになったことが出てきた。例えば施設一体型の小中一貫校だけでなく、施設分離型の小中連携校であることを選択理由としている方もいる等である。 ・ 地域とのつながりについて、アンケート項目を学校と地域との関係を見るように変更した。 ・ 校長のリーダーシップは小学校で平均8%になっているが、学校ごとに見てみると、この割合がかなり高い学校もある。また、中学校よりも小学校の割合が高く、より校長のリーダーシップを重視している傾向がある。 (教育次長) ・ 学校と地域のつながりについて、小中連携の学校グループの中で地域との距離に温度差があり、注視していく必要がある。地元と小中一貫教育との関わりはまだまだ十分とは言えない。保護者や地域に学校自らの教育活動をより示していかなければならないと考える。
委員意見要旨	特になし
議事結果	了承

件名	日程第3 報告事項2 品川区立幼稚園教育職員の任免について
担当課説明等	
委員質疑要旨	
事務局説明	
委員意見要旨	
議事結果	非公開